

# Japan Cup 全国犬ぞり稚内大会

## 1 犬ぞり競技の歩み

### 南極観測越冬隊とタロ、ジロの生還

昭和31年、我が国最初の南極観測越冬隊が組織され、極地における交通・物資の輸送手段として「犬ぞり隊」の編成が決定されました。ブリザードなど厳しい冬の気候が南極に似ている稚内市がその訓練基地に選ばれ、市内の家庭で飼われていた40頭の樺太犬が集められ、稚内公園で1年間の厳しい訓練が行われました。

そして、訓練を耐え抜いた犬の中から20頭が、翌年第1次越冬隊とともに南極観測船「宗谷」により昭和基地に派遣され、その任務を遂行しました。アクシデントにより20頭は極地に置き去りにされましたが、その中でタロとジロは翌年まで生き抜き、奇跡の生還を果たしました。

この犬たちの故郷である稚内市では、タロ、ジロを含む20頭の樺太犬の慰労と功績を讃えて、記念碑や供養塔を建立し、毎年慰霊祭を行うとともに、夏祭り「稚内みなと南極まつり」を実施するようになりました。

### 稚内南極犬愛好会の設立

タロ、ジロの感動のストーリーを一躍全国的に有名にしたのが、昭和58年に高倉健主演で映画化され、大ヒットした「南極物語」です。この映画に主役を演じたスター犬タロ、ジロを含む7頭の樺太犬が撮影終了後映画会社から稚内市に寄贈され、生まれた子犬の飼い主と市内の愛犬家が集まり、「稚内南極犬愛好会」が設立されました。



全国犬ぞり稚内大会実行委員会

幹事長 山本 四朗

### 全国犬ぞり稚内大会の開催

これを契機に、昭和59年3月、犬ぞり発祥の地稚内公園において、22頭の犬たちにより「第1回全国犬ぞり稚内大会」が開催されたのです。

この大会は、第9回までは稚内南極犬愛好会が自主事業として実施してきましたが、どんどんと規模が大きくなってきたため、全市を挙げて取り組まなければならない状態となり、第10回大会からは官民一体の実行委員会を設立し、「JAPAN CUP」の冠をかぶせ、グレードアップを図りました。

稚内南極犬愛好会の長年の熱意と努力もあって、犬ぞり競技は各地に普及し、現在では全国で20大会が開催されるまでになりました。その中で稚内大会は、最も歴史があり、規模的にも競技内容、参加選手数、観客動員数等すべての面で最大の大会であり、「犬たちの甲子園」とも呼ばれるほど全国から憧れの的となっています。

また、夏祭り「稚内みなと南極まつり」では、今まで誰も考えなかった「夏の犬ぞり大会」を市内の目抜き通りで開催し、「犬ぞりの街・稚内」をアピールするとともに、まちおこし、観光振興に貢献しています。

### さらなる発展を目指して

犬ぞりレースは、国際的には北米、ヨーロッパを中心に普及しています。冬季リレハンメル・オリンピックでは公開競技として開催され、今後正式競技となることが期待されています。

稚内大会では、後程ご紹介するように、1頭



夏祭り「稚内みなと南極まつり」の犬ぞり大会

引から7頭以上の多頭引まで、距離も200mから長いものでは30kmまでいろいろな種目があり、コース設定とトレイルづくりが大仕事です。将来的には50km、さらには都市と都市を結ぶ都市間レースにも挑戦したいという夢を描いていますが、公道の横断箇所が課題です。新しい冬のアウトドアスポーツとしての普及を図るには、四季を通じて多目的に使えるレクリエーション道路の整備が望まれます。

## 2 「JAPAN CUP全国犬ぞり 稚内大会」へのご招待

### あなたのペット犬も参加できます

大会は、毎年2月の最終日から日曜日にかけての3日間行われます。場所は、第5回以降15回大会までは稚内空港公園で開催されていましたが、昨年度の第16回はオープンしたばかりの「道立宗谷ふれあい公園」に舞台を移し、新しいコースで競技が行われました。

出場者は、ムツゴロウ動物王国をはじめとする道内、遠くは大阪、東京など全国から日本一の栄光をめざして集まってきます。

競技種目は、1頭引(200m)、2頭引(1km)、2頭引スプリント(2km)、3頭引(4.8km)、6頭引(9.6km)、チャンピオン(30km)、ウエイトプルと多種多彩な種目があります。



ボクは何に出場するのかな？

この大会に参加できる犬種の指定はなく、各家庭で飼っている1頭の犬が参加できるレースもたくさんあります。また、勝ち負けにあまりこだわらないで楽しむイベントとして、飼い主と犬の呼吸を合わせて行うパフォーマンス、曲芸・芸を披露するペット自慢もあり、犬の祭典の場として家族ぐるみで楽しまれています。



ウエイトプル

JFSS公認6頭引きレース

チャンピオンレース  
(30km、  
7頭以上引き)



### 見るだけではない

さらに、この会場で同時に開催される「冬のわっかない観光物産まつり」は、約40店の飲食店、物産店が出店し、見るだけでなく、稚内の味覚をその場で楽しめるイベントになっています。

観覧スタンドから広大な原野の中で繰り広げられる犬ぞりレースを観戦し、寒くなるとテント村で温かい飲物をとってまた観戦し、お腹がすいたら北の幸をたらふく食べて満足し、話のタネに観光展でも覗いて、帰りにはお土産の特産品を買い求めて、“感動する冬の稚内”の一日を満喫していただきたいと思います。



腹がへっては...



# 旭川国際バーサースキー大会

旭川開発建設部 地域振興対策室長 谷口 秀之

## シーズン最後のスキーイベント

毎年春分の日に開催され、北国に春の到来を告げる国内最大規模のクロスカントリースキーと歩くスキーの祭典「旭川国際バーサースキー大会」は、1981年（昭和56年）に、「旭川国際バーサー大会」として1,800人の参加者によりスタートしました。翌年の第2回大会から FIS（国際スキー連盟）の公認を得て国際大会への仲間入りをし、第6回大会から現在の「旭川国際バーサースキー大会」へと改称して現在にいたっています。

## 大会の由来

16世紀にスキーで雪原を逃れ、スウェーデン独立を果たしたグスタフ・バーサー王の偉業を記念したクロスカントリースキー大会「バーサーロペット」が、1922年からスウェーデンで開催されており、現在では参加者は20カ国以上1万人を超える大会となっています。

「伝統あるバーサーロペットのような大会を旭川でも開催できないか」ということで、当時普及し始めた歩くスキーの愛好者やクロスカントリースキーの関係者らの熱意が実り、本大会が誕生しました。

## スキーを通じた国際交流

1990年（平成2年）の第10回大会には、スウェーデン王国からカール16世グスタフ国王のご臨席を賜り、旭川と同様にバーサースキー大会を開催しているスウェーデンのモーラ市、アメリカのミネソタ州モーラ市の両市からも市長らが来旭し、大会を通じた本格的な交流が始まりました。

これを機会に、旭川市とスウェーデンのモーラ市、アメリカのモーラ市の3市が、今後推進すべき基本目標について合意し、共同宣言を行いました。

## 思い思いのペースで

19回目を迎えた今年も、春分の日（3月21日）、旭川市神居町上雨紛の旭川競馬場周辺で開催され、スウェーデンの駐日大使をはじめ、長野五輪代表を含む招待選手など国内外からあわせて7,546人が参加し、それぞれ思い思いの滑走を楽しみました。

大会は、総延長約30kmの道のりからなるコースを利用し、クロスカントリー部門12種目（一般男子・女子、中学生、小学生、5～50km）と歩くス



第19回大会のスタート風景



山並みを背景に快走



コース中程の歩くスキー

キー4種目（5、10、20、30km）で行われます。  
 クロスカントリースキー部門では、日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮すべくタイムを競い合う一方、歩くスキー部門では、最高齢者賞や最遠来者賞、ファミリー賞といったユニークな賞が用意され、職場の仲間同士や家族がそろって楽しんで参加できます。  
 なお、共同宣言にのっとり、スウェーデンとアメリカのバーサー大会を含む3大会を完走した方には、その栄誉を称えて「国際バーサー賞」が授与されることになっています。

**北国の特性を活かしたまちづくり**  
 本大会は、冬の生活をより楽しく快適に過ごすため、冬期間の市民の健康増進・体力向上を目指した冬季スポーツイベントとして、子供からお年寄りまでが楽しめることで人気を集めています。さらに、歩くスキー及びクロスカントリースキーを通じて北方圏諸国との交流を促進する国際イベントとしても期待されており、北方圏に位置する旭川市の特性を活かした、地域の活性化に大きな役割を果たしているイベントです。

（写真提供：旭川国際バーサースキー大会事務局）

